當暗中有明、 進歩非近遠、 萬物自有功、 眼色耳音聲、 色元殊質像、 門門一切境、 靈源明皎潔、 竺土大仙心、 承言須會宗、 本末須歸宗、 四大性自復、 鼻香舌鹹酢。 迷隔山河固。 當言用及處。 尊卑用其語。 支派暗流注。 勿自立規矩。 勿以明相覩。 如子得其母。 聲本異樂苦。 囘互不囘互。 東西密相附。 謹白參玄人、 觸目不會道、 明暗各相對、 當明中有暗、 然於一一法、 暗合上中言、 囘而更相涉、 執事元是迷、 事存函蓋合、 火熱風動搖、 人根有利鈍、 理應箭鋒拄。 契理亦非悟。 光陰莫虚度。 運足焉知路。 比如前後歩。 明分清濁句。 道無南北祖。 勿以暗相遇。 依根葉分布。 水濕地堅固。 不爾依位住。

火は熱し風は動搖、水は濕い地は堅固。四大の性自ら復す、子の其の母を得るが如し。暗は上中の言に合い、明は淸濁の句を分つ。色元質像を殊にし、聲本樂苦を異にす。囘して更に相渉る、爾らざれば位に依て住す。

明中に當て暗有り、暗相を以て遇うこと勿れ。本末須らく宗に歸すべし、尊卑其の語を用ゆ。然も一一の法に於て、根に依て葉分布す。眼は色、耳は音聲、鼻は香、舌は鹹酢。

萬物自ら功有り、當に用及處言うべし。明暗各相對して、比するに前後の歩の如し。

暗中に當て明有り、

明相を以て覩ること勿れ。

歩を進むれば近遠に非ず、迷て山河の固を隔つ。 觸目道を會せずんば、足を運ぶも焉んぞ路を知らん。 言を承ては須らく宗を會すべし、 事存すれば函蓋合し、理應ずれば箭鋒拄う。 自ら規矩を立すること勿れ。

謹んで參玄の人に白す、

虚く光陰を度ること莫れ。